



店土割

和 第

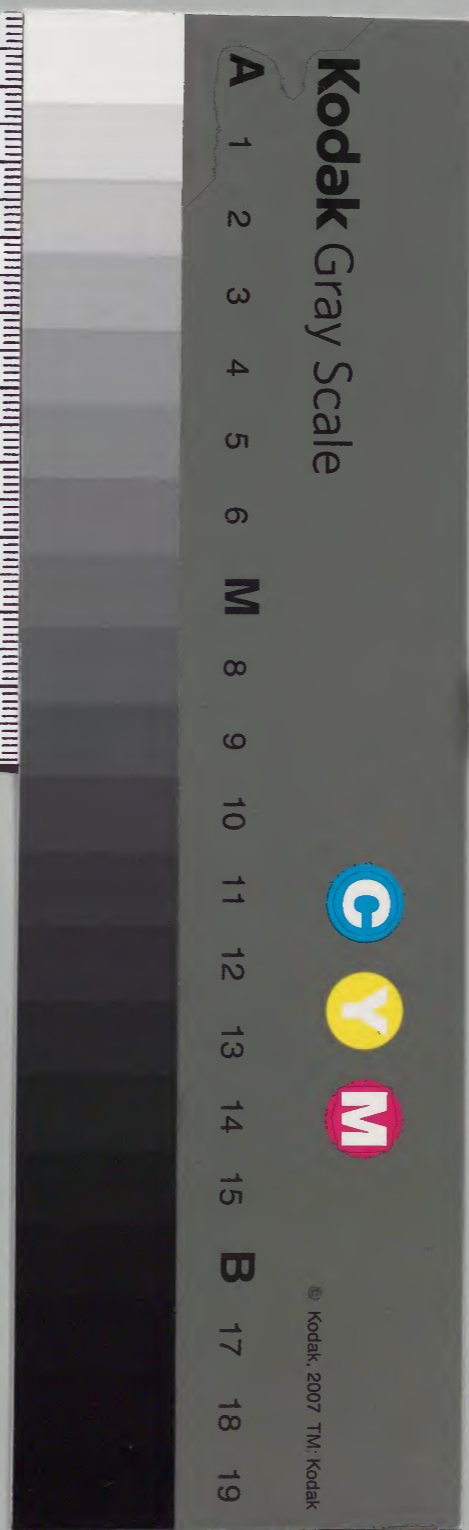
内閣文庫	
和	類
一	一
二	三
三	四
架	冊

大政官文庫

	一	和
	二	書
一	三	門
五	四	
冊	函	
架	冊	

内閣文庫	
番號	和 11134
冊數	15 (4)
函號	184 360

典故



唐土訓蒙圖彙卷之三

明治十二年癸卯

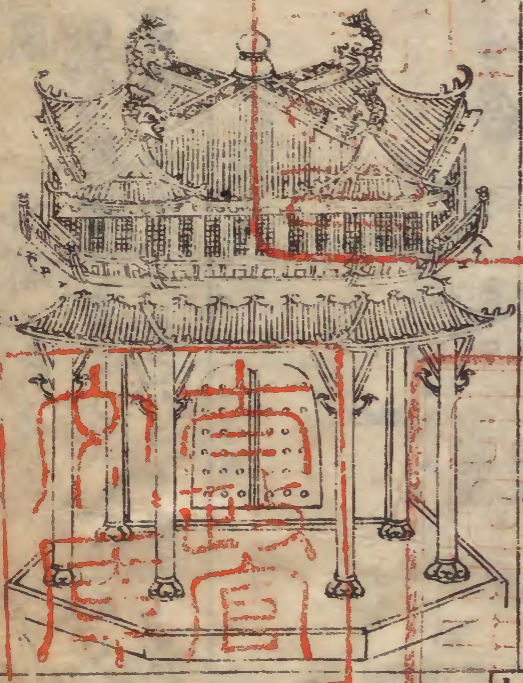
名の下に
和名と附

宮室

易曰一壯潛上吉穴居而野處後世聖人易之以宮室此部は天子の宮あり下長岡の村居あり

宮 宮にや 合宮ハ天子の宮なりとて都邑の中に處すむとあり

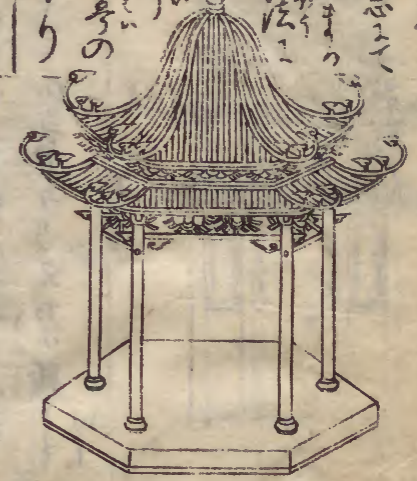
殿 殿とは 前殿ハ秦の始皇帝の宮にあり



大寺下

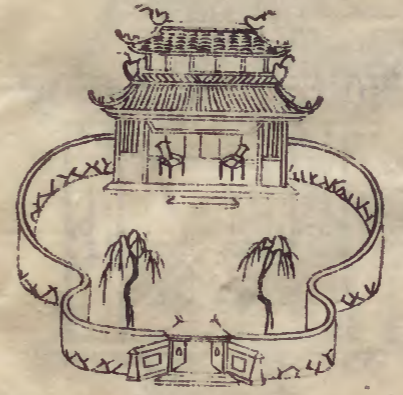
亭

亭の字の意は、
をゆりあつたつ
不し秦の法に
十里に一亭
あり形と亭の
長といふなり



館

舎なり他國
より來るもの
賓使をしと
りてなり
いふつらあり
わりの使者
舎なり

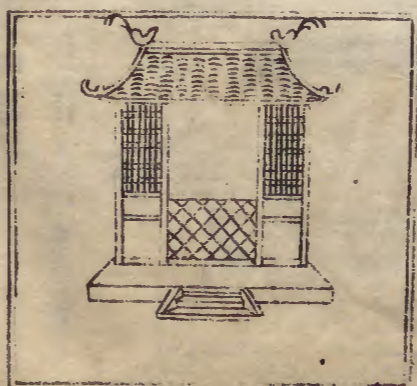
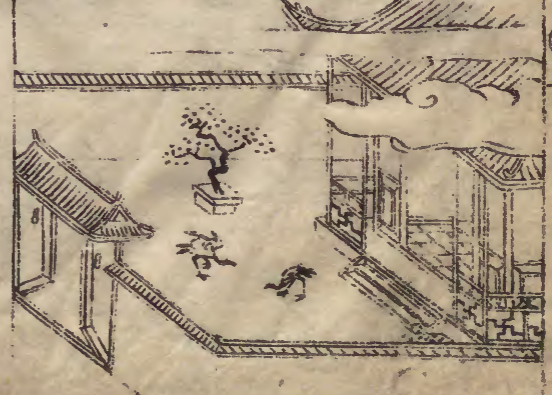


庭

庭の意は、
黄帝大庭の
館といふなり
庭の名其帝
といふなり

宅

孟子に曰く
五畝の宅を
ゆるに桑を
つく宅のなり
よ桑といふなり



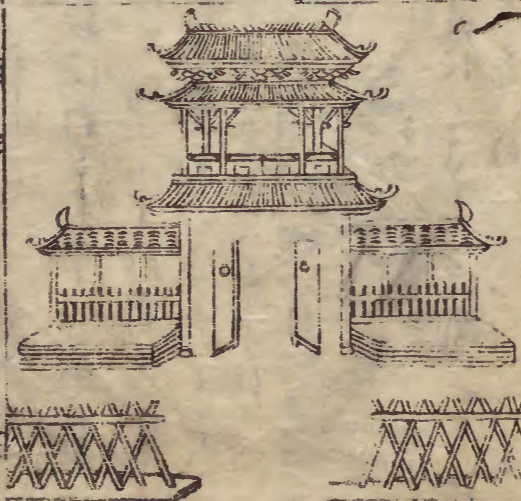
齋

宣帝齋居と
事と變なり
より此名あり
及し殷仲港
池のなり
臺とて齋
所なり



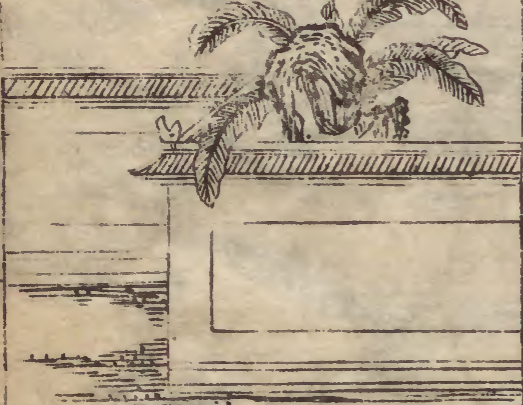
廡

百官の居
所と府と
いふなり
官廡といふ
府といふに
同し



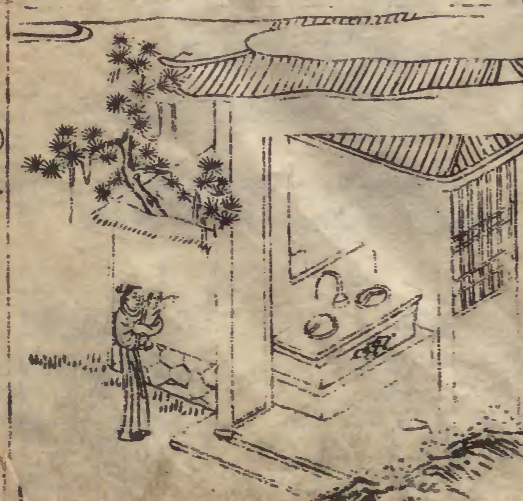
堵

堵の意は、
人として高穴
とて一丈
と敷く五
丈と堵といふ
史記に堵といふ

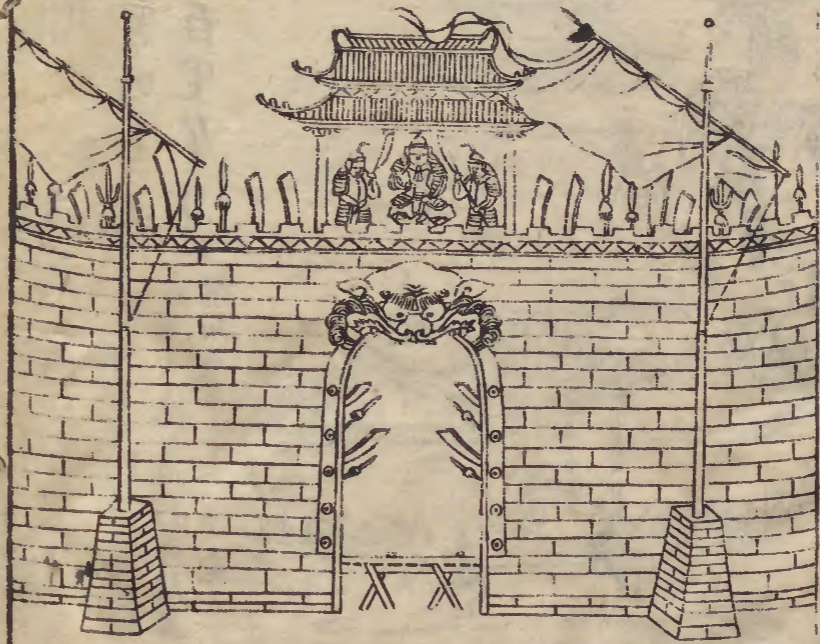


廡

義始に伏
家祭の礼
と制して
儀性といふ
供といふ



關塞 關塞の圖は如くと家へ入るを禦
非常と云ふところなり塞の隔
をわたりて遠征の邊のつととつし
の塞は和訓コトキトヨムナリ



星鋪 肆のちらるる筈とりりひ
おののせをたつせりせり或は
地をたつてひらくを列のせり
さうへ星の船をとり改る星貨
浦といふなり



坊

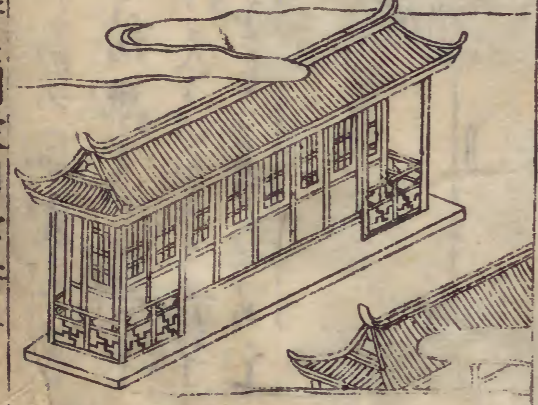
坊は方と
と邊と
又園乃
名漢の
時より
なり



異水室
宮中乃
織物
深練を
つとつと
右といふ

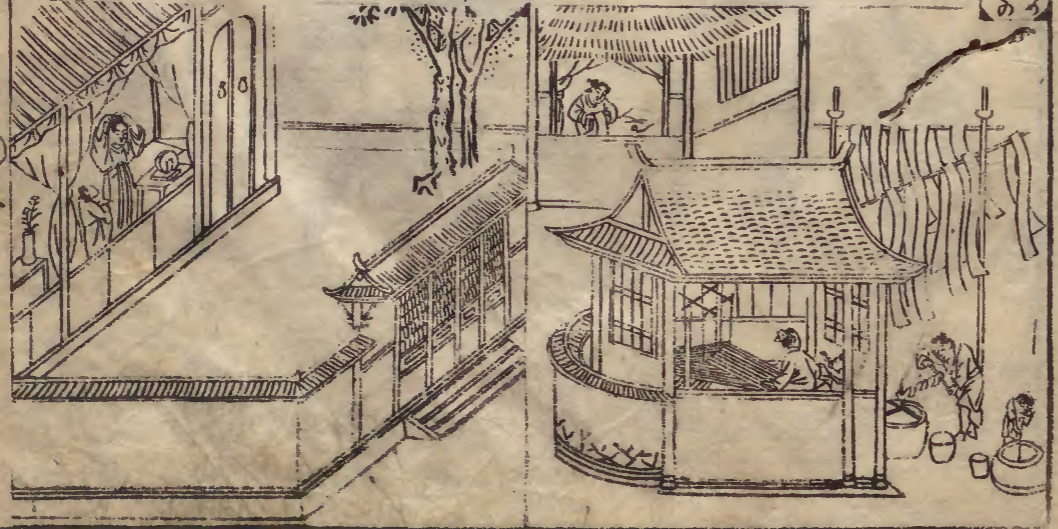
房

房は方と
又邊の義
不て風雨燥
湿と房也
宮室の制
中央と心室
と左右と
房と



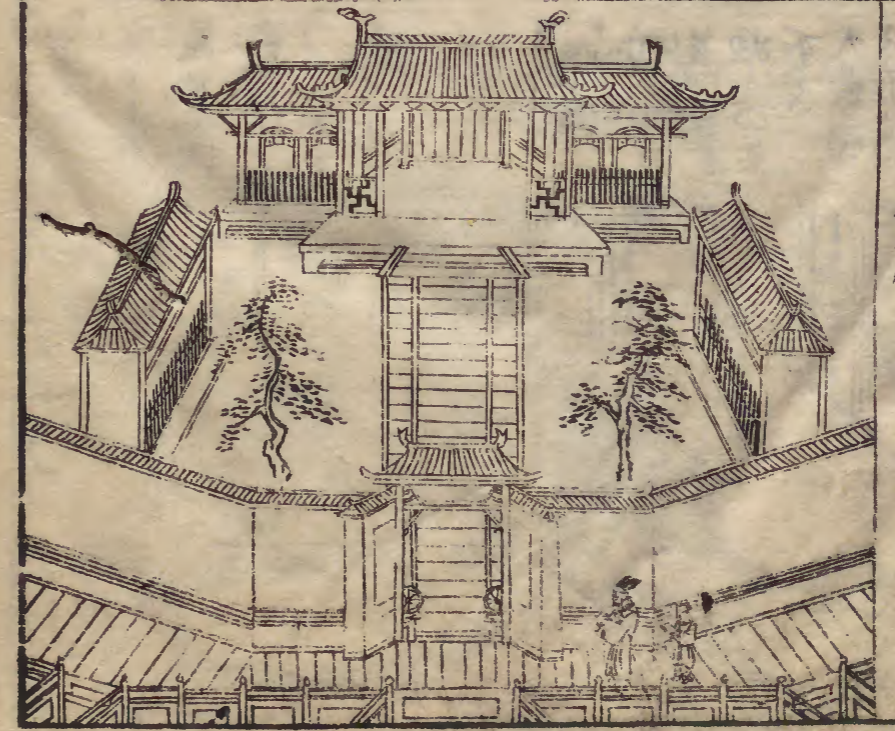
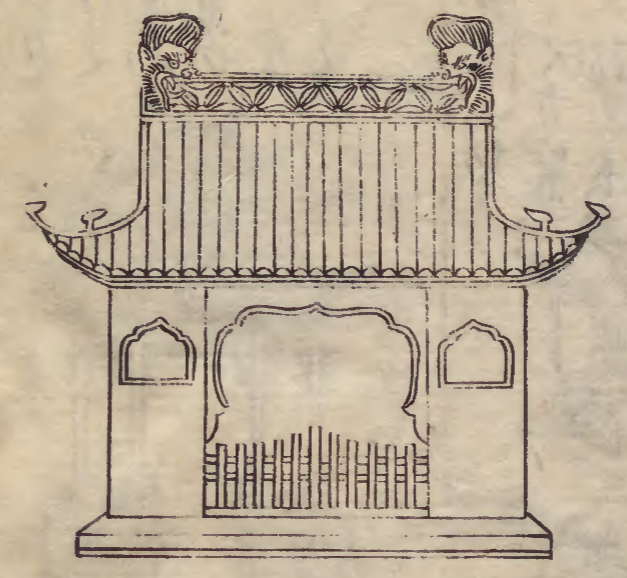
帷薄

帷薄は幔也
婦人の居
大戴禮
不修と
是也



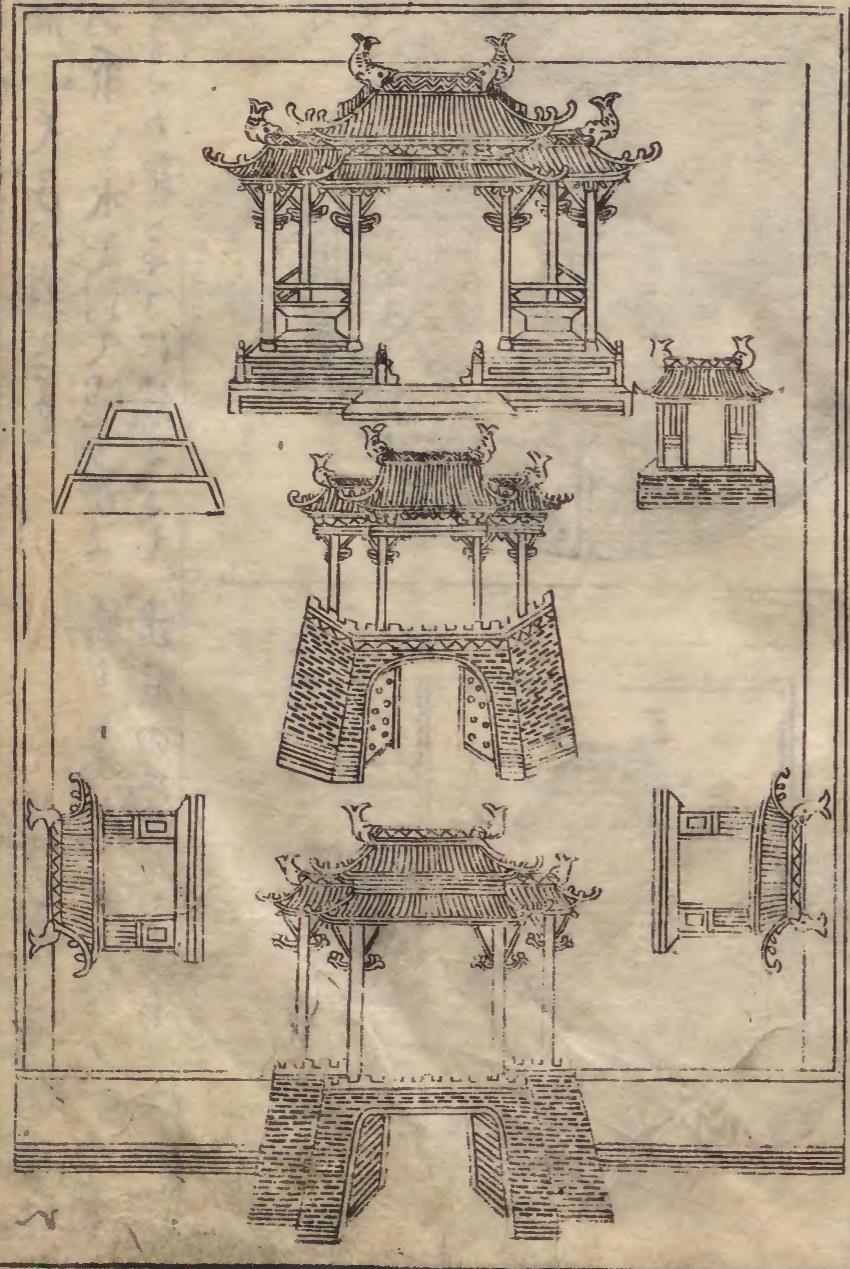
唐土訓蒙圖景卷三

廟ミヤ 廟ミヤハ顔カノノ字義ジギトテ若ニ人ヒトノ靈レイ貌バウト彷彿カウフトスル故ユナリ
 びりヒリノ天テンノ命メイト云イハル所トコロニ下シ遊ユ慕ムスル祠シト云イハル其ソノ儀ギト云イハル



學ガクノ所トコロト云イハル廟ミヤノ上ノ天子テンシノ御ミコノ學ガクノ所トコロト云イハル
 西ニノ學ガクノ所トコロト云イハル

學ガクノ所トコロト云イハル廟ミヤノ上ノ天子テンシノ御ミコノ學ガクノ所トコロト云イハル
 學ガクノ所トコロト云イハル廟ミヤノ上ノ天子テンシノ御ミコノ學ガクノ所トコロト云イハル

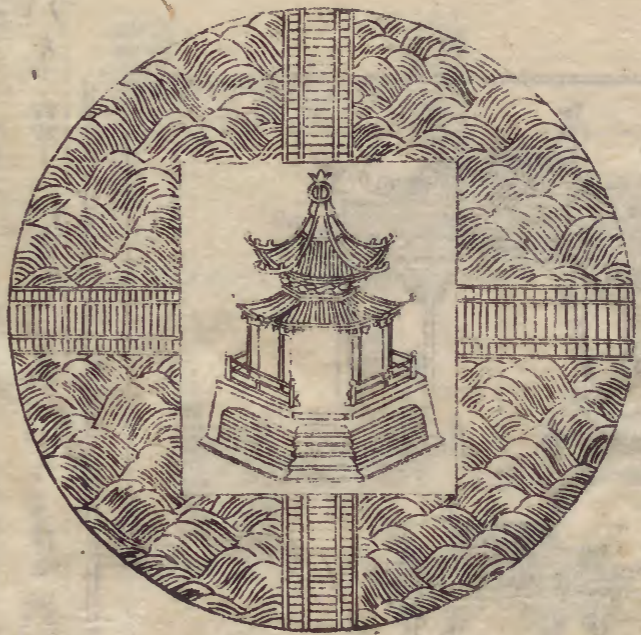
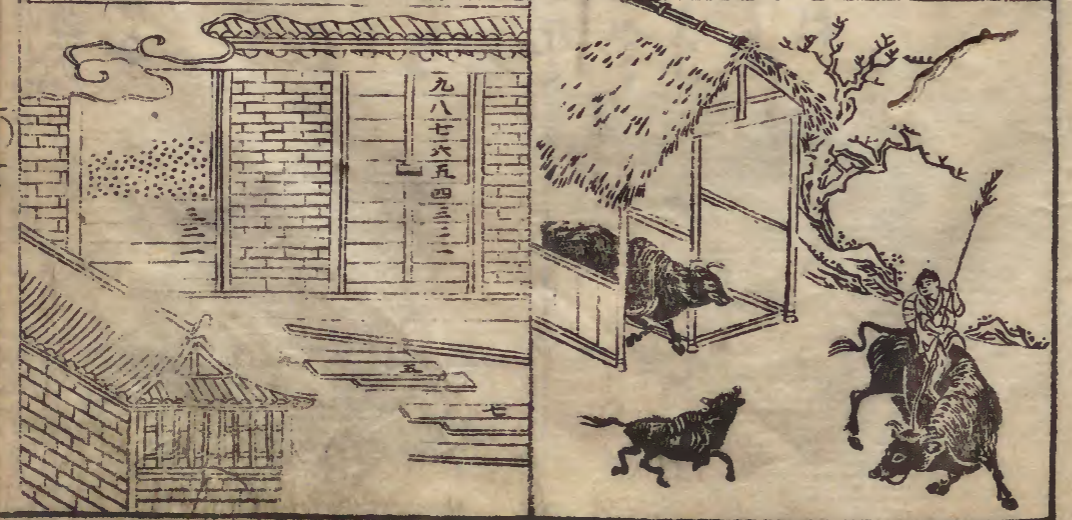


學ガクノ所トコロト云イハル廟ミヤノ上ノ天子テンシノ御ミコノ學ガクノ所トコロト云イハル

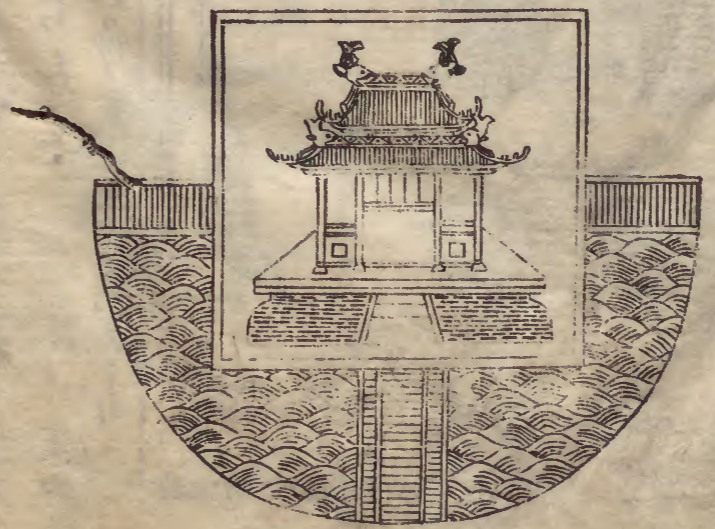
田廬の民の家おふ
 牛を畜ふと將
 たり五畝の
 宅二畝半と
 半と田と
 右制なり
 田圃とちん
 小屋ここ
 ぬん人け
 田とよせ
 くらにま
 くらもの
 あり



牛室
 牛と
 ころら
 ころら
 ころら
 倉
 五穀を
 おさる
 慶の
 を倉
 りなり



辟雍 天子の射と字いれ
 れふの取し水と引て四か
 しくまうに橋をさ



泮宮 泮の義ハ半の字と
 通し天子及まれなりこ
 諸侯の世子舎なり

廩 くら 辟土
かくやぬころり
わくといふ所の
廩倉ハ五穀
とをる所の
おむかりも
いへり



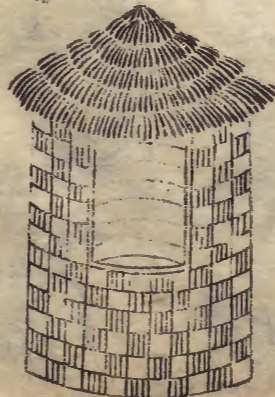
廩 くら 辟土
かくやぬころり
さくらといふ
いほりいれな
はななり



庫 くら 兵器
金帛をかくと
書といふを
文庫と庫ハ
湯武のとき
五庫と築て
五兵とを
いへり

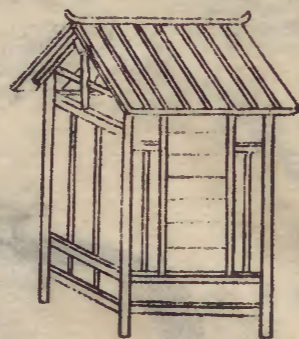


庫 くら 兵器
金帛をかくと
書といふを
文庫と庫ハ
湯武のとき
五庫と築て
五兵とを
いへり

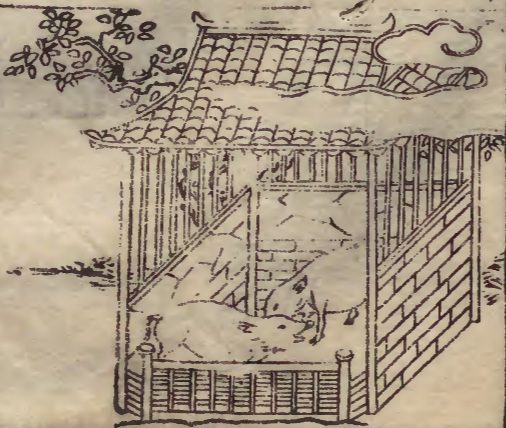


京 くら 於

けつといふ又
原の字といふ
京ハ高大乃
義といひ
いへり



京 くら 於
けつといふ又
原の字といふ
京ハ高大乃
義といひ
いへり



賣 くら

小て腹大
よして外へ
と穿て入
下といへり
空と似たり

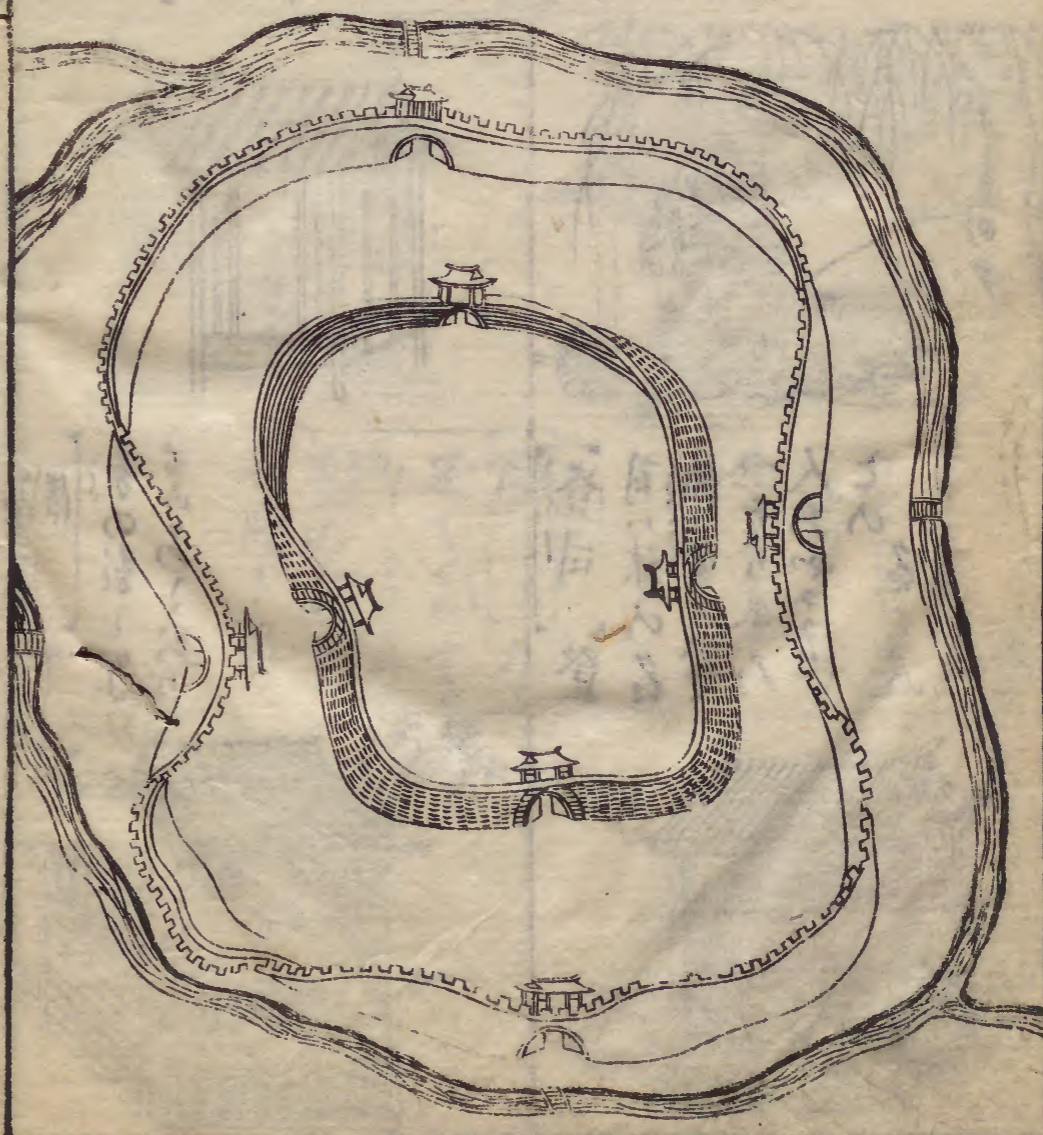


登司 登
河林の名
敷登といふ
つり今乃
人あやう
との名と見



郭

城のかと郭
とらふびり
縣の城と
つらりこれり
守りて君を
衛つて民を
のれ縣と城
とにさうり
わとさうり
城の八君わり
郭のいびわり
いさひさうり
さうりこれり
○傾城 破度の子
不とさうり
とも四カう
こもわり
いさひさうり
いさひさうり



唐土記 卷之三

城

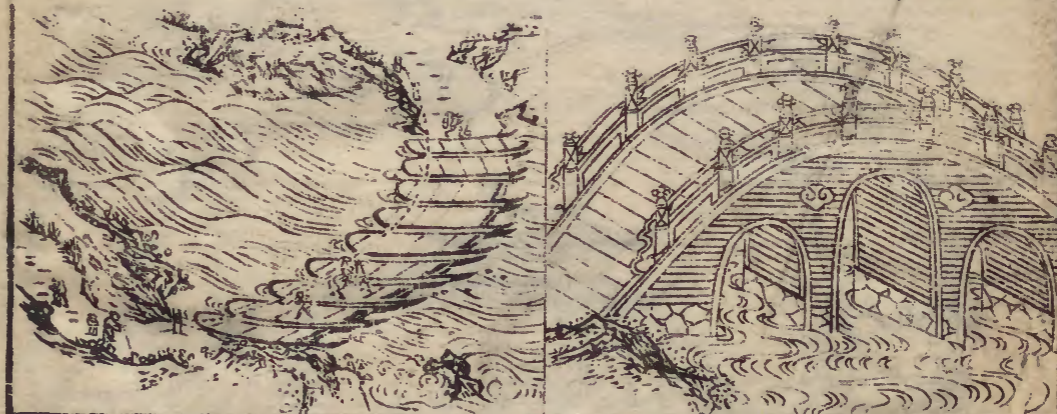
城の盛なり
とさうりに
國の城とさうり
故なり城上の
垣と睥睨と
やまの孔の中
より非なりと
睥睨とさうり
あつとさうり
城の早
してさうり
夫とさうり
さうり



唐土記 卷之三

橋

水
深くはくち橋
たたくては海
上りり人の能
橋て大水をも
跨りて意し
橋て製あり
別な國系も
は橋の渡物多
故こゝに載り



維舟

天
子ハ舟と造り
諸侯ハ維舟
大夫ハ方舟
士ハ持舟
すといへば昔
秦の始皇は
とけくり

民社

民社
土地の神と社といひ
共工の子句龍
社神と云ふの
五帝と一社と
各地に宜下の
社といふ儀と云ふ



釣橋

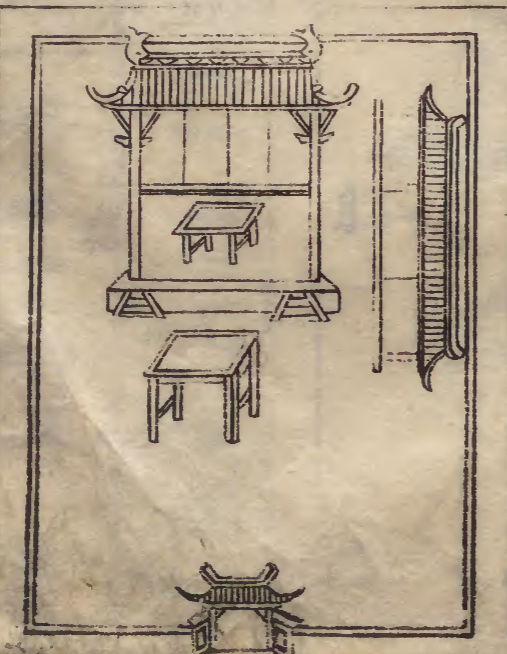
軍
用之具し其制
橋のより上
は三の鉄環と
施し貫くに三
の鉄索と以
てゆり麻繩と
以て城接の
上よはく界

祠堂

先
祖とまつる所
の親氏乃
伊壇の如し
これハ一間を
圖せり

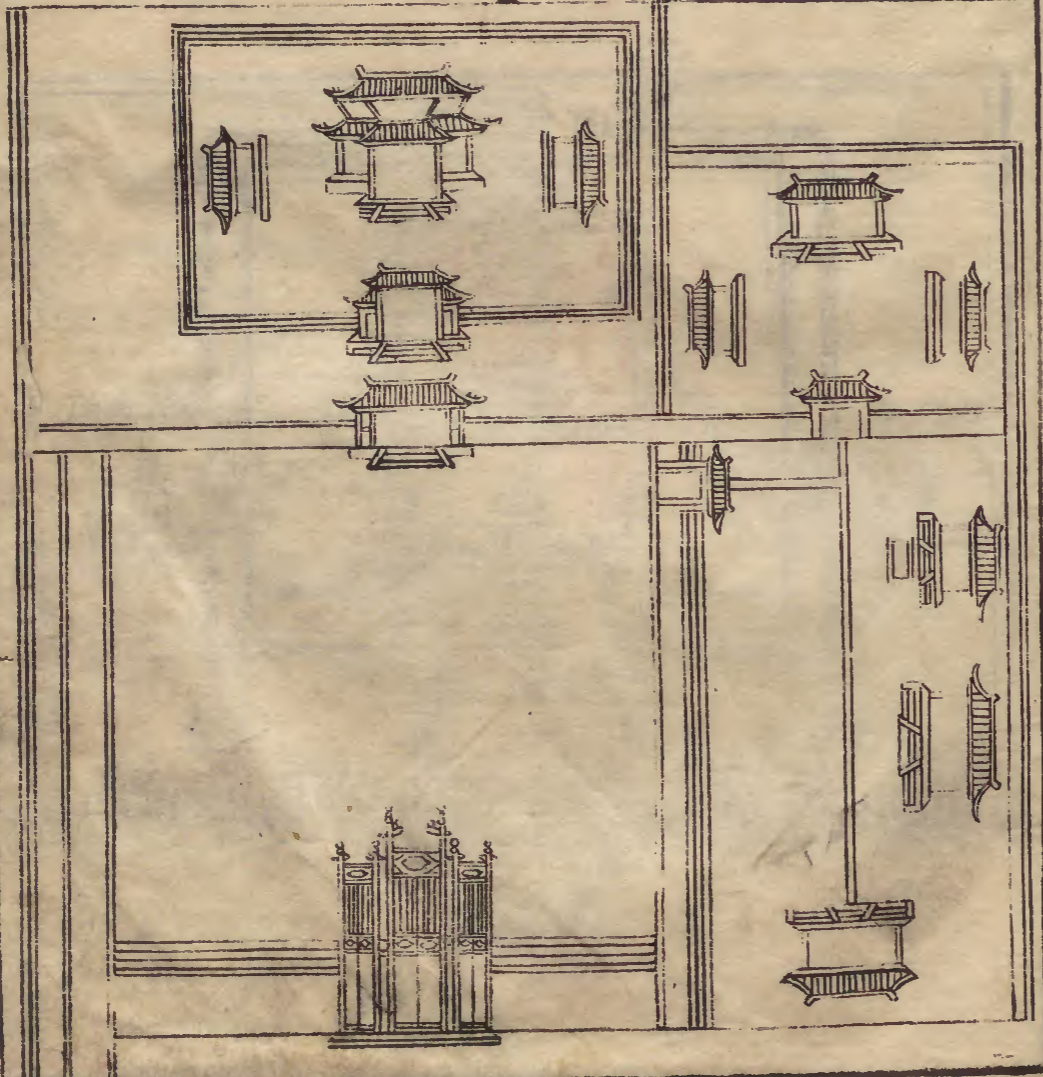
祠堂

是國ハ二間の制に
せり多ありとれと一間と云ふ



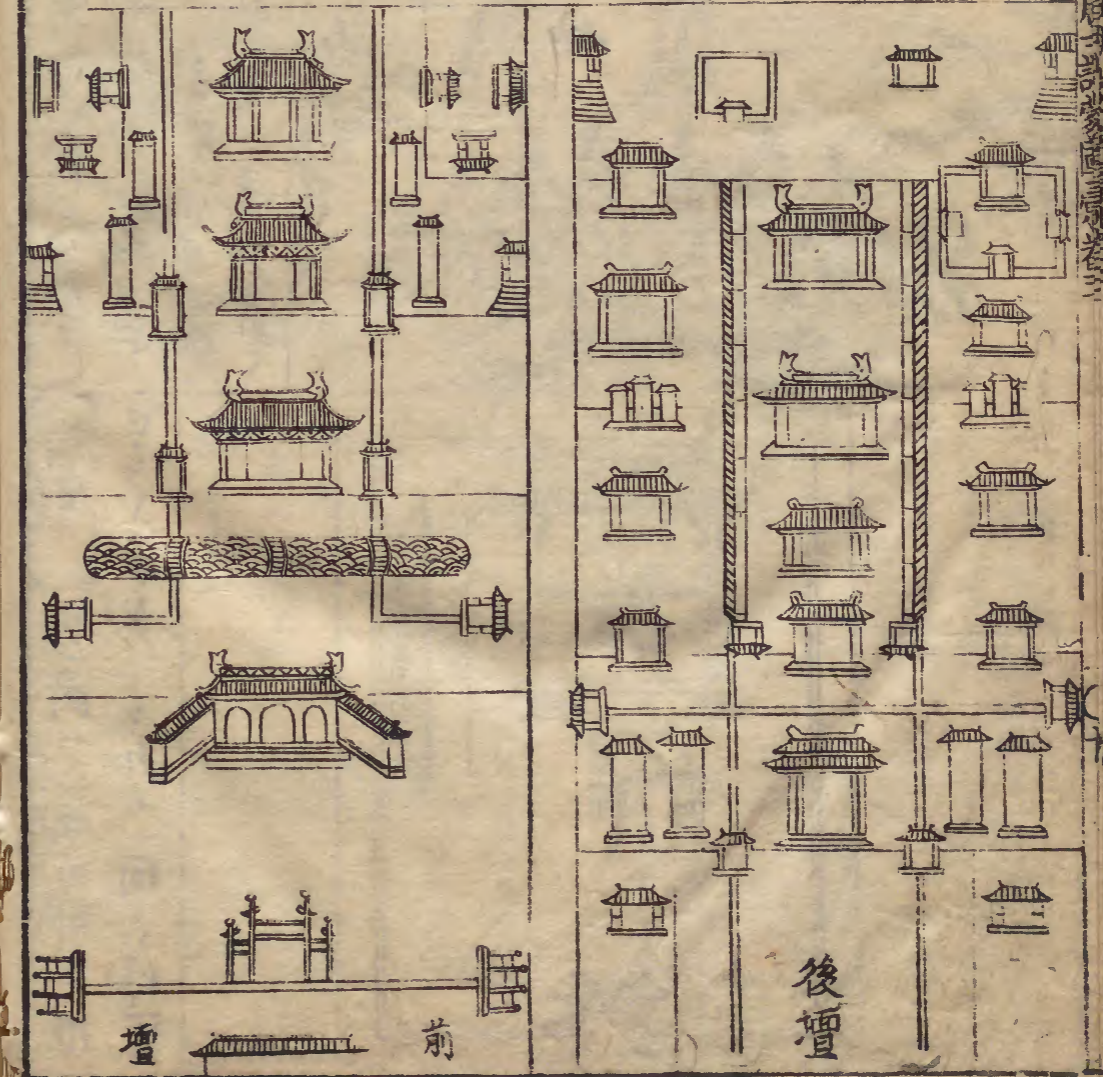
これ天子を
祖と祀る所
なり

廟
まゝ



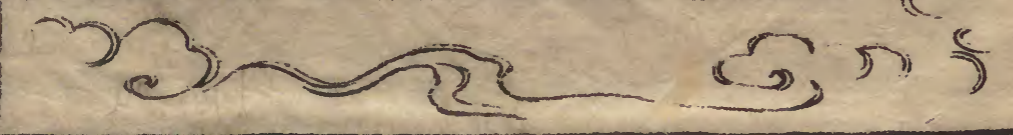
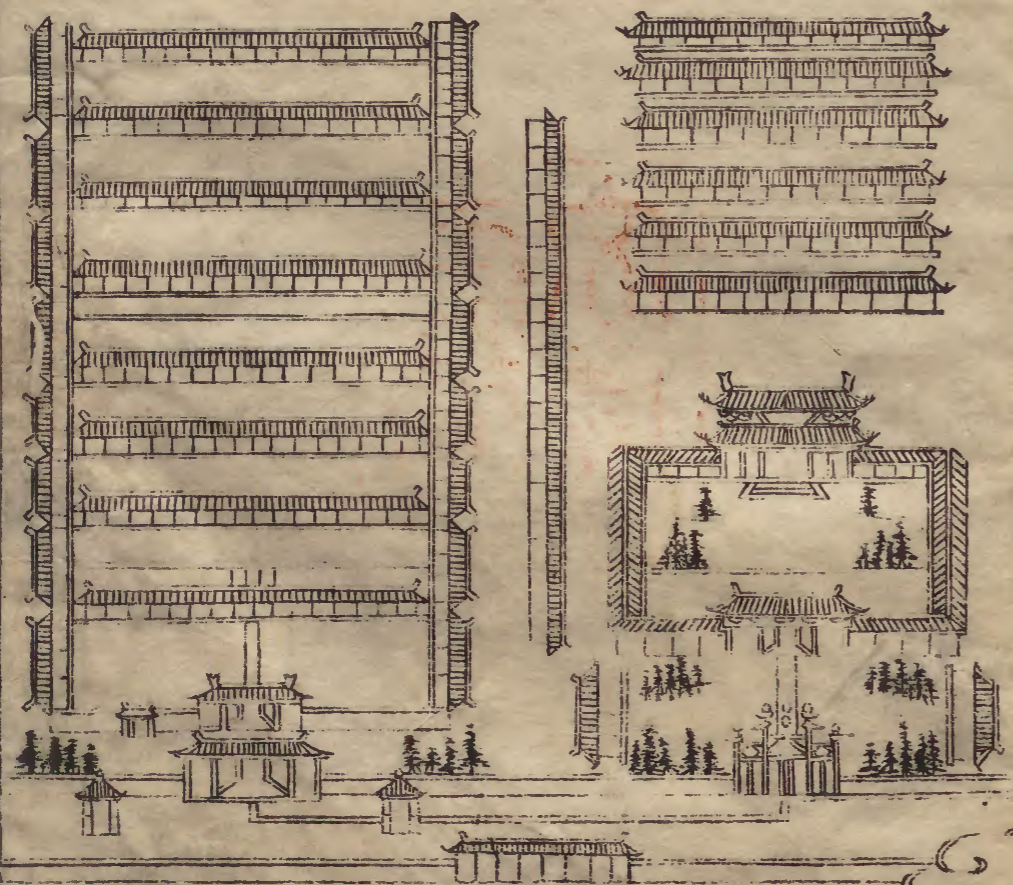
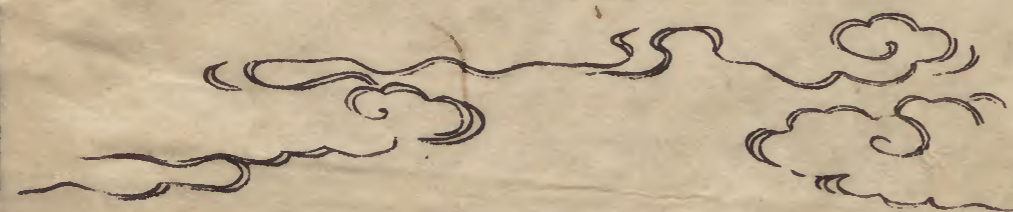
夫子宮壇前
後圖

先聖孔子の廟
充外仙源帥の
西二里西の、
魯城に接する
と三百歩 闕
里の舊宅なり
殿門の階梯ハ
西とく、
跡圖 廟里志
宮に足らぬ
まゝハ
朱のこ
わはに



大い 學々 校々 所々 學々

大い 學々 校々



皇城圖

これ天子の
まじりし
都の國今
よ祭奉し

